

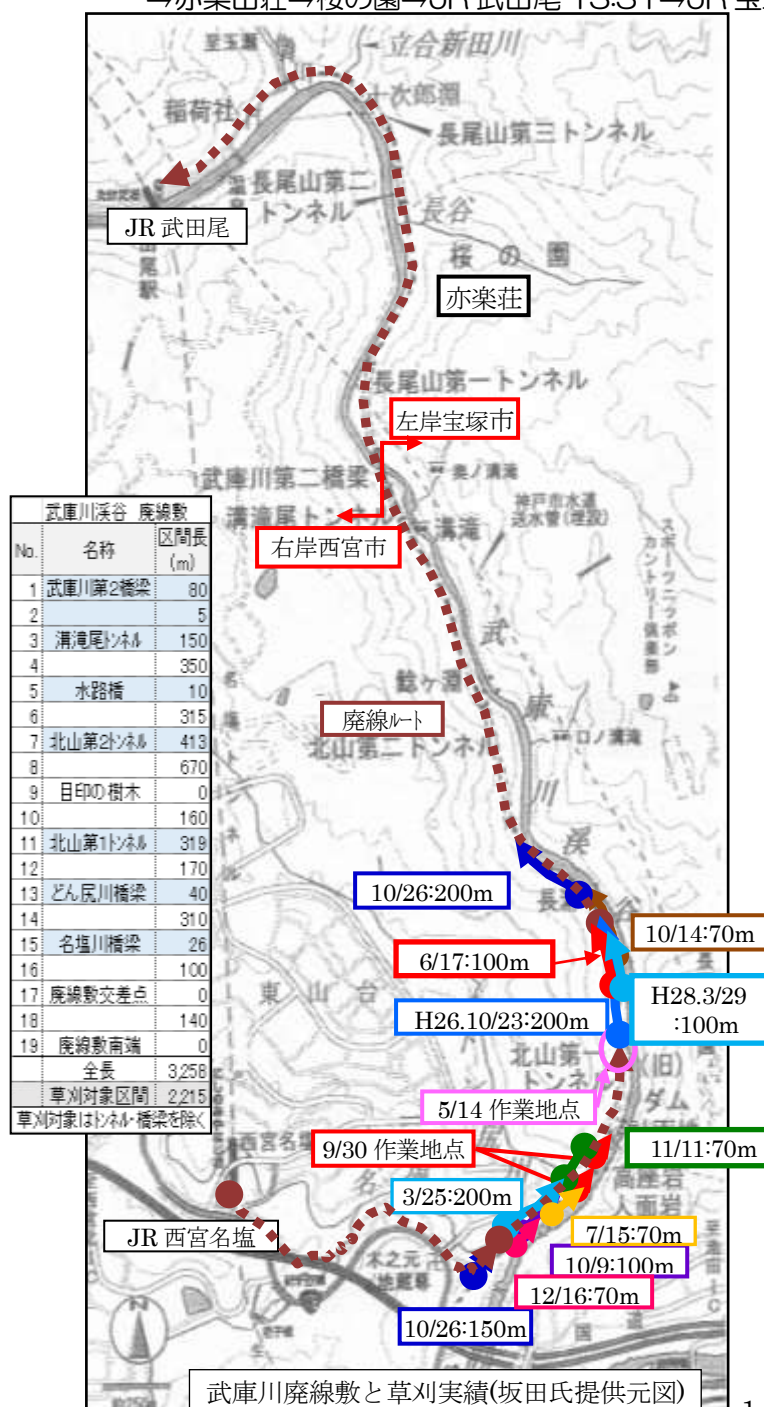
第11回 チーム・7活動報告



参加者：坂田・三吉・岡本・高岡・中村・大島の計6名+今山・片桐・山田の合計9名

日時：平成28年3月29日 10:00～13:40

行程：JR西宮名塩 10:000⇒廃線敷⇒北山第一トンネル⇒ビュ・ポ・イ前後草刈 12:00 昼食後撤収 ⇒親水広場
⇒亦楽山荘⇒桜の園⇒JR武田尾 13:31⇒JR宝塚 13:36⇒解散(珉珉で作戦会議)



昨年未だの草刈だったが、2月の活動報告でアピールした結果、3名の新規参加者を得た。卒業式後久しぶりの馴染みのある顔ぶれも大勢が揃うと嬉しくなる。数日続いた寒気も解けて、好天無風と比較的暖かく久しぶりの草刈日和だった。

道すがら 3/23 の西宮市との打合せ結果を皆に話し、廃線敷に到着してトイレの設置位置を説明した。北山第一トンネルを抜け、いつもの河側景観ポイントに到着後、草刈開始。

約1時間少しの作業で、二手に分かれて河川側の景色が見える様に笹ヤブを切るチームと、軌道敷の笹藪や下草を刈るチームで範囲も分かれて作業し、100m程度の軌道敷の整備と30m程度の河川側の竹藪刈を行った。草刈中平日にも関わらず50名以上の小学生の団体が4名程度の引率で通過したり、未就学の姉妹を連れた外国人家族、下は5歳の姉妹家族など、大勢の家族連れが通過していた。寒暖差が緩み、風や雨も無い調度良いお出かけ気候だったからか。

小一時間の作業の後、溪流の景色を見ながら昼食を皆で取って、早めに武田尾に向かって歩き出した。ハイク道が始めての方々にも武庫川渓谷と廃線敷の素晴らしさを味わってもらうために、ゆっくり解説しながら北上し、親水広場から亦楽山荘から桜の園をめぐる6名のチームと残りは親水広場で一休みして皆を待った。桜にはまだ早く、樹によっては少しだけ花が開きかけているものもあったが、ほとんどが蕾膨らむ程度で、花が開くまでにもう少し日にちが掛かりそうだった。



H27.12.16 草刈跡を行く



河川景観ポイント



北山第1トンネル北側坑口 (H26.10 最初の草刈範囲)



草刈中



草刈中



草刈終盤 360° (両端の道は1本の廃線敷)



小学生の団体約50名以上



草刈 After (合成画像)



昼食後 亦楽山荘へ出発



実生の桜



親水広場での小学生昼食会



米カーネギー社「CARNegie
1896」銘の谷留め工

上のIDタグ桜は、以前実生の桜として名札が下がっていたもので、枝垂桜の葉がつい武庫枝垂と命名されていた。一本の木を見守っている目を感じられ、温かい気持ちが伝わってくる。

親水広場では、草刈り作業中に通過していった小学生グループが丁度昼食をとっていた。春休み中の小学生低学年が、団体で通過するのを見たのは今回が初めてであり、今後の一般開放でもっと多くの団体が来てくれればと思うと心強い。また、小さな女の子を含めた家族連れや外国人家族も含めて、若者連れや家族連れが多く、ざっと80名近くが丁度散歩に良い気候・景色を満喫していた。

右写真の古いレールを再利用した谷留め工は、谷からの土砂流出を受け止めるものである。銘のカーネギー社はニューヨークのカーネギーホールで知られる。日本で他の地域ではほとんどが1910年以降の銘のものが知られるが、南海電鉄に1896年銘のレールが兵庫県神戸市工場製造の30kgレールが保管されている。

古い駅舎などに古レールを流用した例は多く残っており、阪鶴鉄道の開通時のレールとして設置され、急峻な地形の武庫川溪谷では、手近な谷留め工として流用されたものと思われる。レールの車輪に接する上面は、かなりすり減っていてギリギリまで使われたのだろう。日本のレール製造は八幡製鉄が1901年に始まり、黎明期の日本各地のレールは、英国や米国からの輸入レールの使用が多い。初期の日本製のレールに比べて耐摩耗性や耐衝撃性が3倍以上優れ、かなりの期間輸入レールの使用が並行されたようである。NETでは1900～年製の同社レールが3cmのカットで¥7,000の高値が付いている。Mitsuiの道の整備では近代化産業遺産の一部として現状保存を期待するが、止むを得ない理由で撤去する場合は、古レールを切売りすればかなり高額で売れる可能性がある。JRにも是非検討してもらいたい事項では有る。

(以上 文責 大島 勲)